

南高麗地区



平成 27 年度飯能新緑ツアーデーマーチ南高麗接待運営委員一同

南高麗地区は、飯能市街地の南西に位置し、東西約 9 km、南北約 4 km の細長い形状をした、中山間地と呼ばれる地域で、西の山間部には市指定天然記念物のモリアオガエルが生息し、東部には同じく市指定天然記念物のカタクリやイカリソウが早春に花開くなど、豊かな自然を有している。

また、縄文時代の住居遺跡が点在し、江戸城天守閣造営の際に必要な、消石灰の生産の場となった石灰焼場跡や、現存する曹洞宗の本堂としては最も古い長光寺の本堂があるなど、この地には長い歴史と、その歴史に醸し出された豊かな生活文化がある。

年に一度の大運動会や文化祭の時期になると、住民総出で盛り上がり、人々の心の中に郷土愛の溢れる地域でもある。

活動実績

南高麗地区まちづくり推進委員会は平成 12 年 11 月に発足し、これまでアクションプランに基づき、IT、イベント、ふるさと、夢農場、子ども・学校応援の各実行委員会によるさまざまな活動を展開している。

- ・ IT実行委員会は、HPの作成や更新、普及等、南高麗地区の情報発信源としての活動を行っている。また、地区内で行われる行事を撮影し、写真記録に努める一方、昔の写真をデジタル記録する活動を行っている。
- ・ イベント実行委員会は各種イベントを企画・実行し、地区住民の交流の場を作っている。ツーデーマーチと地区文化祭での売店運営、会員の親睦を図る納涼会、研修旅行も実施している。
- ・ ふるさと調査実行委員会は、ハイキングコース設定とコースの道標整備、主だった山頂に石の標識を立てる活動を行い、7基立てることが出来た。
- ・ 夢農場実行委員会は、会員が自ら農作物をすることにより、衰退しつつある南高麗の農業に対する理解を高め、作業を通じて会員相互の協力体制の強化に役立っていると思われる。具体的には、小中学校の児童・生徒と農業体験実習を実施し、作付けと収穫の喜びを共有している。また、南高麗の花いっぱい活動で植えたミツバツツジの管理も継続し行っている。
- ・ 子ども・学校応援実行委員会を平成 22 年度に立ち上げ、継続して活動している。これは「子どもは地域の宝」という言葉があるように、将来少しでも地域に留まり、この南高麗地域において活躍する子どもたちの成長を見据えて、学校行事にも協力し、地域の活性化を図る活動として行っている。

現状と課題

恵まれた自然を維持するために必要な人的資源の減少により、今後、地域の環境保全は難しいと感じている。

この現状を打破するためには、元気で経験豊富な高齢者が地域の活動に主体的かつ積極的に取り組むことが必要である。したがって、高齢者が意欲的に取り組める魅力的な活動の創出が急務である。また、どうすれば若い世代が南高麗地区に留まるか、その方法を地区全体で考える必要にも迫られている。その先駆けとして、地域を挙げて子ども会や学校行事への協力をを行い、将来的な地域の担い手の確保を目指して活動していく必要がある。

南高麗地区は、市街化調整区域であることから、住宅の建築が制限されているが、平成 28 年度から“農のある暮らし”「飯能住まい」制度が導入され、農地の有効利用により住宅が増えることに合わせた人口増加が期待できる。この制度が確実に定着するためには、地区の人々の農地有効利用への理解が必要である。

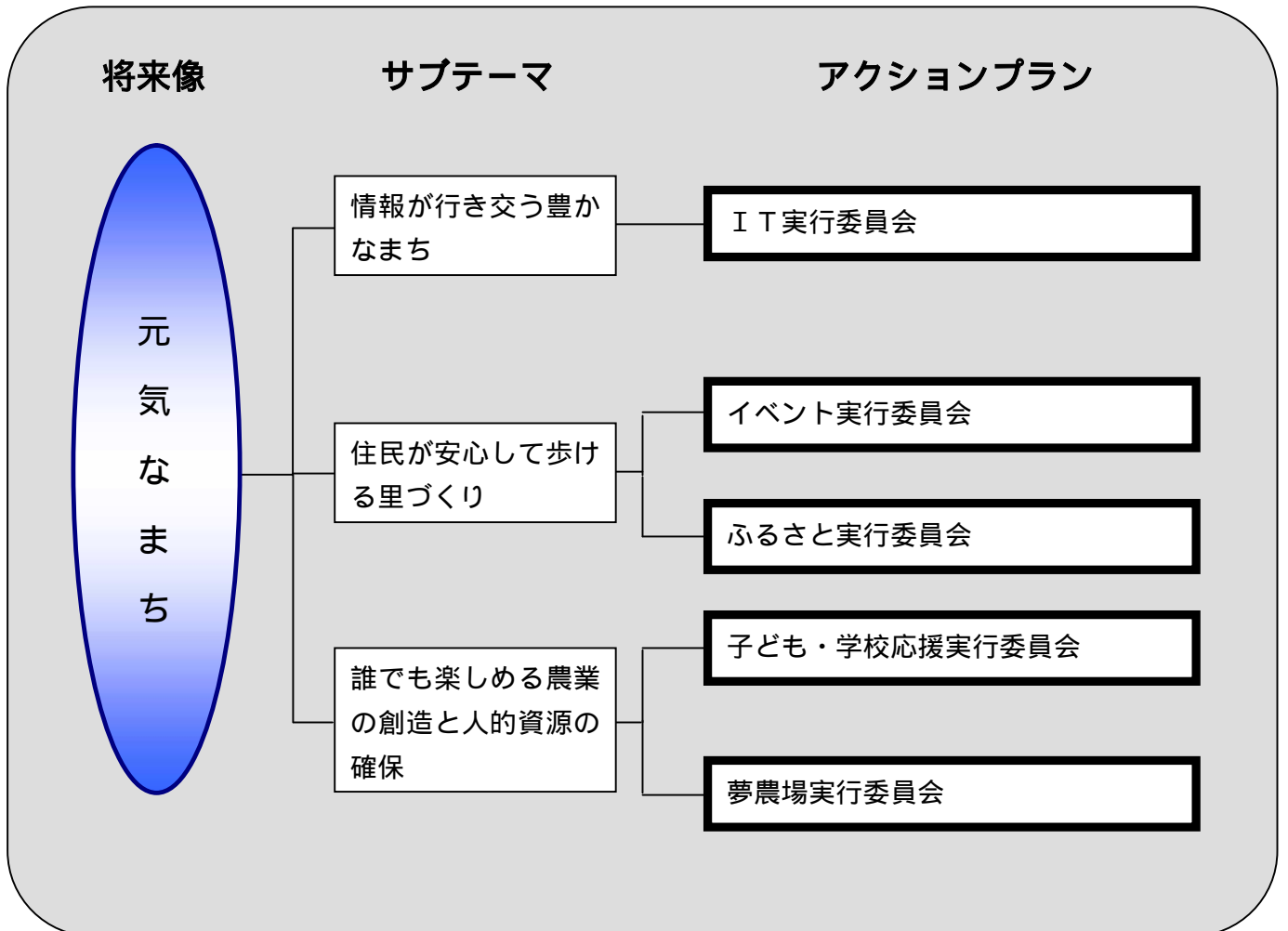
将来像

元 気 な ま ち

サブテーマ

情報が行き交う豊かなまち
住民が安心して歩ける里づくり
誰でも楽しめる農業の創造と人的資源の確保

南高麗地区協働計画「アクションプラン」



文化遺産写真記録事業
【弁天橋】



萩の里づくり植樹参加
平成27年

アクションプラン 「IT実行委員会」

〔目的と取り組み〕

高度情報化社会への変遷に伴い、南高麗地区ではITメディアを利用し、地区内の情報を共有化することで、南高麗地区の一体感を向上させている。

同時に、地区の発展に役立つ地区外の情報の収集も並行して行う。

今後も引き続き南高麗地区まちづくり推進委員会ホームページの運営や初心者向けのパソコン講習会を実施していく予定。

HPを使って行事をPRし、参加を募る方法を導入する。

古い写真をアーカイブスとしてデジタル記録保存する活動を行う。

ホームページの名称は「おいでなすって南高麗」

アクションプラン 「イベント実行委員会」

〔目的と取り組み〕

地区住民が安心して暮らせるまちをつかっていくためには、住民が直接顔を合わせ、言葉を交わす機会を設けることが重要である。

文化祭やツデーマーチ、健康づくりのワンデーウォーク、収穫祭等、人と人がふれあう機会を可能な限り多く創り、将来像である「元気なまち」を目指して活動を進めていく。

売店運営は、携わる人を確保する課題を解決しつつ、今後も実施していく。



飯能新緑ツデーマーチ売店運営
平成27年



まちづくり計画話し合い
平成27年

アクションプラン 「ふるさと実行委員会」

〔目的と取組み〕

南高麗地区の恵まれた自然に、地区の内外を問わず多くの人にふれていただくために山道の整備を行う。

南高麗全域のハイキングコース整備はほぼ終わったが、さらなる調査を行い、出来るだけ多くのコース整備を行う。また、公民館（地区行政センター）や体育協会と連携して作り上げたハイキングコース 10 コースも両者とのタイアップ事業で活用していく。



石標設置事業
平成26年

アクションプラン 「子ども・学校応援実行委員会」

〔目的と取組み〕

「子どもは地域の宝」という言葉があるように、若い世代の南高麗地区からの流出を防ぎ、地域の担い手を確保していかなければならない。

将来もこの地域に留まり、地域の良さを理解し、南高麗地区で活躍する子どもたちの成長を見据え、地域を挙げて子どもや学校行事に協力することで地域の活性化を図る。



小学生と一緒に田植え
平成27年

アクションプラン 「夢農場実行委員会」

〔目的と取組み〕

農業を通して多くの仲間をつくり、農業への理解を深め、誰でも楽しめる農業を目指し、南高麗を農業で賑わう地にしたいと考えている。また、多くの仲間を募るため地区外賛助会員制度も取り入れている。

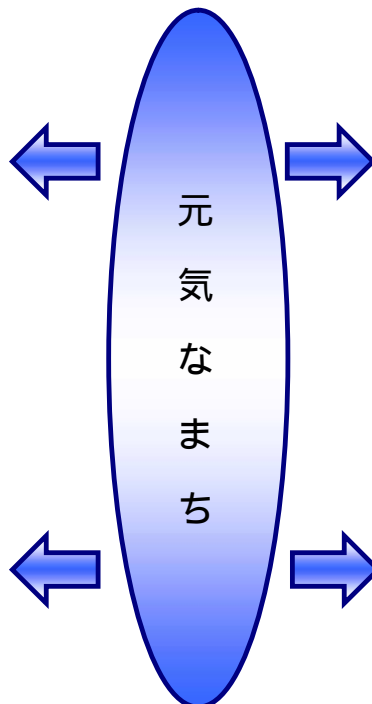
恒例となっている地区の小中学生との農業体験実習や地区の小中学校や福祉センター等へ収穫した農作物の提供を行う。ミツバツツジの管理については所期の目的を達成したので、縮小を検討する。

下畑の穴郷（あなご）という土地は、魅力的な里山であり、夏はホタルが飛び交うことから、ホタルの調査を行う。併せてこの地に「花とホタルのハイキングロード」設定の検討を行う。

市全体で計画している「萩の里づくり」の一環として「萩」植栽地としても位置付けたい。



苺生夢農場ジャガイモ植栽手入れ
平成27年



各アクションプランを推進するうえで、活動モデルを次のとおり示す。

南高麗地区まちづくり推進計画 活動モデル1

南高麗地区の交流人口を増やすため、里山・人・仕事を結びつける「里山親民」の定着化を目指す。

- ・地区に有る環境や施設をそのまま活用して、通年人を呼ぶ事業の実施を検討する。
- ・里山体験イベントを開催する。

【 1月～12月年間行事例 】

- 1月 餅つきと七草料理・猪鹿鍋
- 2月 きのこと菌打ち（椎茸・なめこ）
- 3月 野菜の種まき・野草教室
- 4月 花見ハイキングと田舎料理
- 5月 ダイコン種まき・サツマイモ苗植え
- 6月 梅の収穫と梅干・梅酒づくり
- 7月 野菜の収穫・しそジュースづくり
- 8月 お祭り参加・川遊び
- 9月 稲刈りと収穫祭
- 10月 山仕事・ほだぎ・きのこ狩り
- 11月 たき火と焼き芋
- 12月 かどまつ・リースづくり

【事業推進のキーワード】事業を進めるための視点

農ある暮らし「飯能住まい」に連動したまちづくり計画を具現化するには地域の総合力を持ってあたる。

- ・協力体制による共同体組織の活動：できる所から始める
- ・存在環境施設の活用：有るもの探しからの発想
- ・イベントごとに独自性を持たせる：やりたい事に工夫を凝らす
- ・行政の協力：埼玉県や飯能市の許可と支援を得る
- ・地域の協力と連帯：地区の人たち・各団体や組織との連携
- ・開催時期：タイムリーな企画が必要
- ・エコツーリズムによる事業：主体は主催者
- ・利益をしっかりと上げることが必要：収支決算を確認する
- ・地域の交流市場：野菜や特産物の販売所を設け、地域内外の交流を図る



時計台



滝の入タブの木

アクションプラン
夢農場実行委員会

秋葉神社



遊歩道整備



観音寺



富士浅間神社

徳蔵寺



吾妻神社





アクションプラン
こども・学校応援
実行委員会



石灰焼場跡

アクションプラン
ふるさと実行委員会

 ミツバツツジ
 一本桜

